

短歌

目覚めよく窓を開ければ新雪に栗鼠の足跡沢へとつづく
 しんしんと雪降る深夜見廻りに牛舎につけば猫も待ちをり
 中天の満月の明かり地を照らし雪煙めきて凍てつく空気が
 新町 金子 年子
 浜厚真 山田 志津
 京町 中井 るみ子

あつま文芸友の会発行「文芸あつま第二十三号」から抜粋



Vol.240

厚高インフォメーション Atsuma High school Information



学校の取り組みをご覧ください。
 厚真高校ホームページ
<http://www.atsuma.hokkaido-c.ed.jp/>

■2年生インターンシップ
 ▼10月16日～18日
 町内および近隣の各事業所で
 インターンシップ（職業体験）
 を実施し、11月8日の職場体験
 発表会で経験したことや学んだ
 ことなどを全校生徒の前で発表
 しました。

■1年生インターンシップ
 ▼10月25日
 昨年度まで、インターンシッ
 プは2年生で実施してしまっ
 が、今年度より1年生でも実施
 しており、今回は今季2回目の
 取り組みです。1年生インター
 ンシップでは、主に第1次産業
 の職業体験を実施しています。
 この取り組みを通して職業観を
 身につけてもらいたいと思いま
 す。

■見学旅行
 ▼11月18日～21日
 高校生活最大の行事である見
 学旅行に行ってきました。今年
 は、関西方面（大阪・京都・奈良）
 です。大阪では、キャリア教育
 の一環として「職業体験・見
 現場へ初めて行きました。芸術
 鑑賞として「宝塚歌劇団」を観
 劇したり、大阪市内を自由散策
 するなど、多くの大阪文化に触
 れてきました。また、大阪から
 京都まで、各自で移動するなど、
 ちょっとしたチャレンジもあり
 ました。最終日、三十三間堂（京
 都）では1001体の仏像から
 自分と似た顔を探したり、奈良
 公園（東大寺他）では大仏に圧
 倒され、薬師寺（奈良）ではと
 も面白い説法に笑わせてもら
 いました。生徒たちにとって盛
 りだくさんの思い出に残る見学
 旅行となりました。

■第33回中高生意見発表会

▼11月3日

厚真ライオンズクラブ主催で
 行われ、本校から3人の生徒が
 発表しました。成績は次のとお
 りです。

- ・ライオンズクラブ賞
- ・山口海梨（2年）「伝えたいこと」
- ・優秀賞
- ・高田華凜（2年）「ベラルーシで」
- ・中谷公紀（2年）「働く」

厚真町 地域おこし 協力隊



起業型地域おこし協力隊
 すわ よしのり
諏訪 義典 さん (55歳)

着任 平成31年4月（1年目）
 出身地 大阪府（移住前は札幌市に在住）
 活動内容 補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬など）
 の繁殖サポート

これまでの経歴と厚真での活動について教えてください
 約27年、札幌市の北海道盲導犬協会に勤務して、盲導犬の育成事業に携わってきました。働き始めたころは犬の管理訓練、視覚障がい者へ盲導犬の歩行指導、白杖訓練など盲導犬との訓練に関することや、視覚障がい者のリハビリテーションなど、幅広くいろいろな業務を経験させていただきました。その後、盲導犬の繁殖業務が仕事の中心になっていきました。仕事を続けていくにつれ、より質の高い盲導犬やそれ以外の補助犬を安定して提供していきたく強く思うようになり、今回、独立して厚真を拠点に活動していくことにしました。これから厚真で活動していく過程で、震災の復興や地域のために何か少しでもお役に立てればと考えています。

これからの目標や挑戦したいことはありますか
 日本はもちろん、台湾、韓国、香港など東アジアの補助犬施設と連携する橋渡し役をしながら、繁殖事業をサポートしていくとともに、繁殖犬の飼育や犬の出産、子犬の育成を通して、子どもたちや障がい者、いろいろな地域や施設の人たちと交流する場を作りたいと思っています。まだ準備段階ですが、皆さんと一緒に良い仕事ができたらと思っています。

生活支援相談員 だより

社会福祉協議会 生活支援相談室
 電話：29-7407

通常2年間とされる仮設住宅での生活も1年が過ぎ、入居者それぞれに生活の再建について悩みや不安を抱えていらっしゃると思います。

住み慣れた自宅に戻りたくても戻れない事情はさまざまです。経済的な見通しが立たないことだけが理由ではありません。地域の姿が以前と変わり果てたことで自宅に戻っての再建を思いとどまる方。高齢や家を継ぐ家族がいないことを理由に新築を諦め、災害公営住宅を申し込まれた方。また、家族間の意見がまとまっていない、あるいは日々の忙しさの中で家族の話し合いの場を持っていない場合もあるようです。

2度目の冬を迎え、いよいよ来年以降の住まいや

暮らしについての方向性を出さなくてはいけない時期が迫ってきています。

「どうするのか」の前に、判断の材料となる制度や施策が「どうなるのか」が明らかになっていない行き詰まりを感じている方も少なくないと思います。

言いようのない思いや悩みも言葉にすることで気持ち軽くなることがあります。生活支援相談員は1つでも多くの思いを受け止めていきたいと思っていますので、お気軽にご相談ください。



災害ボランティアセンター だより

町災害ボランティアセンター
 電話：29-7407 専用電話：080-1888-3140

災害ボランティアセンターでは、昨年10月から今年3月まで約半年にわたって開催してきた「ぼらカフェ」を、今年9月から再び月1回のペースで開催しています。

震災により地域の人たちが集まる機会や場所が失われたため、ボランティアさんが地域の方が気軽に集まれる場所を作ろうと始まったカフェ。お茶を飲みながら談話したり、ハンドクラフトの体験講座などさまざまなイベントも企画して、子どもから大人までたくさんの方々が訪れています。

「ぼらカフェがなかったら、ずっと家に閉じこもっ

ていたと思う」と、震災当初のことを振り返りながら、毎回楽しみに参加いただいている方もいます。

ぼらカフェは単にお茶を提供するだけでなく、地域の子どもや大人の方が「ぼらカフェサポーター」としてボランティア活動に来てくれるなど、町内外のボランティアさんが集まって一緒に活動する機会にもなっています。ボランティア活動に興味や関心のある方も、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



発表します!!

将来の夢&目標

厚真中央小学校6年



この今野 仁菜さん



みやたけ だいご 宮武 大悟くん



たい ゆうな 田居 優菜さん